



コメドールだより

TAMBORIL 編

【はじめに】

今回紹介するコメドールは、タバコ産業が盛んな「Tamboril(タンボリル)地区」にあります。タンボリルのコメドールはカトリック教会が運営しており、シスター（修道女）が先生として子ども達の保育をしています。

タンボリル地区は、カトリック教会のクリスチャンが多く住んでいます。その為、シスター達が働くコメドールは地元では有名らしく、グアグア（乗り合いバス）の運転手に行き先として「タンボリルのコメドール」と伝えると、「おお！教会のコメドールで働くのか？ありがとう。」とお礼を言われたことがあります。地域に愛されるコメドール…どんな子ども達が通っているのでしょうか？

カトリック教会のプチ情報

① 修道女達は教会の施設で共同生活をしています。

② カトリック教会の修道女はスペイン語では「Monja(モンハ)」、神父は「Padre(パードレ)」です。※「シスター」は英語です。

③ 修道女の修道着は教区（教会の地区）によって違います。

【隊員紹介】

氏名:長江 茉莉子
(ながえ まりこ)

職種:青少年活動

※最近ペンキ塗り（壁画の作成）
をしています。

【シスターとの出会い】



タンボリルのコメドールでは、2名のシスターが子ども達の先生として（奉仕）活動をしています。コメドールでの活動後は地元の教会で活動するという多忙の日々を送っています。

時には優しく、時には厳しく、子ども達の将来の為にシスターとして、教師として、母親代わりとして子ども達に接しています。

【写真①初めまして、シスター】

- ・とても明るくて優しいシスター。
- ・子ども達も「プロフェ(先生)」と呼んで慕っています。

【タンボリル地区の子ども達】

タバコ産業等の農業が盛んなタンボリル地区。産業がありますが、経済的に厳しい家庭が多く、学校に通えない子どもも多くいます。また、ひとり親家庭や両親がいない子どももいる為、シスター達が母親（祖母）代わりに子ども達に教育支援をしています。

その為、シスター達が子ども達に文字の読み書きや集団行動等を教え、私が図画工作教室を行い、子ども達の気分転換と工作の技術を教えるという役割分担をしています。



【写真②バスケットづくり】女の子が多いので、リボン作りや可愛い作品作りをしています。

活動当初は静かな子ども達でしたが、段々慣れてくると元気な（やんちゃな）姿が見られるようになりました。

話を聞かなかったり、突然叩いてきたり、走ってどこかへ行ってしまったり…でも作品の見本やぬり絵を見た途端、ピタッと止まる子ども達…。

そして作品作りが始まると、集中して一気に作り上げます。参加すると最後までやり遂げようとする意欲があり、創造力も豊かな女の子が多いので、個性豊かな作品ができます。



【写真③私の（僕の）バスケット】早速めり絵を丸めてバスケットに入れる子ども達。

【Ayudamos unos a otros】（助け合い）

「子ども達が元気で大変！でも、ここ（コメドール）があの子達の居場所だから。」と長年コメドールで活動してきたシスターが話しかけてきました。シスターの中には数年で他の地区に異動する人もいますが、彼女は主任として長年タンボリル地区で多くの子ども達の世話をしてきたそうです。成長してコメドールを退所した子ども達の中には、その後コメドールを運営する団体（私の配属先であるカリタス・サンティアゴ）でボランティアとして働いている子もいます。

その為、団体で働く子達に再会した時はとても嬉しいそうです。

「子どもの頃お世話になったから、大きくなったら働いて恩返しをする」と助け合う子ども達とシスター達。

カトリック教会のシスターは生涯独身の為、結婚をして家庭を築くことはできません。でも、ここには多くのシスターの子ども達がいる、助け合って生きています。

この関係がこれからも続いてほしい…そう願いながら彼女達と活動しています。



【写真④シスターと子ども達】日本からプレゼントされためりえに大満足のシスターと子ども達。